

# 完成した御陵道の視察

幹事 田 中 好

國を擧げて御惱の御平癒を祈つた甲斐もなく大正天皇遂に神去り給ひ、國民悲痛の裡に御陵道工事を施行せなければならぬのは、臣情堪へ難きものあるが、近く行はせらるべき御大葬儀に缺くる所があつては、更に恐懼に堪へないので御大葬の要務に重大な關係を持つ東京武藏御陵間の道路を視察した。

兩區間の陸上交通機關は國鐵中央線と、國道八號線に屬する所謂中州街道との二つである、兩區間の距離は十四里餘であるから矢張り路上交通圈内に在るものであるが、直接御大葬に御使用なるのは國鐵であつて、道路には關係が無いやうなものゝ、夫れでも御陵墓用材料の運搬やら其の他の小運送は此道路の司る所であるから、御大葬儀に重大

な關係があるものと言つて可い、従て道路の状態を善良にし其の效用を完全ならしむる必要がある、併しながら宮城から虎の門、赤坂見附、青山一丁目と順を逐つて角管出るまでは、例の東京市長管理の道路であつて、天皇御在世中此惡路を御宸念あらせられ之が改良の爲に御内帑金まで御下賜になつた程であるのに、其の劣悪さは今も尙變らな

いのは、寔に恐懼に堪へない。  
角管から此國道に沿ふて京王電車が敷設されてあつて、一部道路併用の箇所があるが、角管の電車發着點に於て國道の中央で電車が引返し運轉をやつてゐるので、乗降客の集散の爲に道路の一般交通は著しく阻害されてゐる、軌道は道路交通の補助機關である、等々の理屈を並べて見ても

駄目で、此所では事實上其の状態は道路交通の妨害機關と言つたつて敢て過言では無い。環狀鐵道の上に立派な道路橋が出来たつて咽喉部が此状態では何の役にも立たない、此處でも矢張り京濱國道の八ツ山附近に於けると同一状態なのである。併し會社も自覺したと見え今起點の移轉工事をやつてゐるから、恐らく御大葬迄にはその工事を完成して一般交通の障礙を除くに至るであらう。

代々幡附近の道路交通は郊外とは言へ市内交通以上の混雑を呈してゐる、隊伍を組んだ糞尿運搬車——自轉車——電車と無秩序に交通してゐる、電車の併用軌道には全然敷石を施してゐない、全く田舎の馬車鐵道式設備であつて軌條が路面から突出し之が爲に路面排水不可能と言つた位では無い溜池式である。何とかすれば可いがとは吾れ人共に發した嘆聲であつたが、營利會社の耳にはとても響くまい道路管理者も亦其の要求を響かそうとはしないらしい。いかに妥協政治の流行する世の中であると言つたつて、法規の命する行政をやらないのは妥協政治以上の罪惡である、

内鐵兩省は御大葬を機として郊外電車の監査をやつたそうだが、此火事泥式監査は餘り効果もあるまい、當局が常に其の心懸けを實行せなければ駄目である。

下高井戸邊からは交通量が漸減して、東京府が周章て、やつた砂利撒布の效目が表はれてゐる、舊驛調布や府中は立派な街路だ、唯排水溝の設備が不十分なので路面は矢張り溜池式である、這般完成した日野大橋も今回は重要な役目を勤める事と爲つた、颯々二百間多摩川の大自然を征服して唯一の偉大さを表はしてゐる、島第一技術課長が此橋の入口を遊園地と間違へ、舊道を疾驅して遡行の苦を嘗めたと云ふ程、夫れ程立派な橋である、若し從來のやうに此處に架橋の設備がなかつたならば、今回のやうな場合にどうしたであらうとは同人一行が期せずして發した聲であつた

日野の町外れには道路交通の最難關が控へてゐる、國道と鐵道の平面交叉——夫れも勾配八分の一の坂路でスカ—の地點を選択しての平面交叉であるから、餘程念の入つ交叉方法である、日野大橋の架かつてゐる所が渡船であつ

た時代は自動車の交通不可能であつた爲に、此交叉も餘り苦にする必要がなかつたのであらうが、今日では到底此様な交叉の存することを許さない、運轉手の話に依ると、此様な所では通過列車が見えないので失敗を招くのであるが列車通過の信號機もなければ道路警戒標もない、随分不要な所に親切らしい道路警戒標があつても必要な所には設備してない、東京府も之に目醒めて改良工事に着手することにしたが、例の調子で進工遅々として到底御大葬儀迄には間に合はないのを頗る遺憾とする。

此難所を突破すると東京附近では見ることの出来ない良道、直線で路面は滑に前の難所と比較して餘りに懸隔のあるのに一驚する、難所を越へた運轉手がスピードを出すのも無理はない、併しながら餘り出し過ぎて加藤前首相がシルクハットを毀したり、警視廳の保安部長が頭を打つて人事不省に陥つたと言ふ珍談もないではない、夫れは道路の罪でなく通行者——運轉手の罪である。

八王寺は流石に都市だ、幸か不幸か大正四年の大火を機

會に國道を取擴けた爲に大路堂々たるものである。當時の計畫者は誰であるか知らないが、兎に角其の先賢を賞して已まない、唯だ此大路を有しながら市と密接の關係ある帝都との連絡の爲に、日野大橋の架設を今日まで實現するこゝとに力めなかつた八王寺市民の無自覺を惜むのである、八王寺から武藏御陵まで一里弱、良道ではないが餘り悪くない。

御陵道は今回新設された鐵道省中央線東淺川停車場から甲州街道を横切り、淺川を渡つて武藏陵に達するものであつて、南多摩郡淺川村横山村の地籍に屬してゐる、延長五百三十六間を有效幅員七間の道路に開設したのであつて、其の内には延長四十八間の淺川橋を包擁してゐる。

路面の工法は水締マカダム工を採用し基礎に栗石徑三四寸のもの厚六寸に敷均し、其の上に川砂利徑一寸以下砂抜厚一寸五分、其の上は川砂利徑六分以下の砂抜一寸とし四噸又は六噸ローラで輾壓してゐる、勾配は百分一のもの大部分を占め最急勾配三十分一のもの百二十間、最小曲線半

徑百間のもの一箇所二百間のもの二箇所である、側溝は東邦コンクリート會社特製のコンクリート管を使用してゐる橋梁は長四十八間幅七間の木造桁橋であつて、一平方尺に對し百ポンドの通過に耐ふる構造と爲つてゐる。

總工事費十二萬四千圓で東京府が府縣道として改築したが、其の費用の全部に對して國庫から補助することゝ爲つてゐる、道路工事としては平凡なもので技術上何等特色を認めない、併しながら舊臘二十七日に工事に着手し一月二十三日に全部完成せしめたことに對しては當局の勞を多とする、若し我國の道路工事が此勢で執行されるものとしたならば、繰越に繰越しを以てするやうな筈がない譯である完成した此道路に 大正天皇の靈柩車を迎へるときこそ、吾等國民の總てが更に悲しみを新たにして、哀悼の極みに地も濕はふであらう——せめて此上は此の如き良道に依つて安らげく長途の旅に就かせられんことを祈つて已まない。

## 大行天皇奉悼歌

文學博士 芳賀矢一作歌  
東京音樂學校作曲

一 地にひれふして天地に

いのりし誠いれられず

日出づる國の國民は

あやめもわかぬ闇路ゆく

二 大葬の今日の日に

流るる涙はてもなし

きさらぎの空春淺み

寒風いご身にはしむ